

自営通信グループの検討課題

1. 第5回委員会から課せられた自営通信グループへの検討課題

- (1) システム分類の共有化や統合化の検討を行うに当たり作成した広帯域と狭帯域、QoS の要否、遅延の有無等、所要の要因をマトリックス化した整理資料を提出すること。なお、資料については、どのような観点から共有化や統合化の検討を行ったか分かるように作成すること。
- (2) 防災関係の現状（現在使用している周波数帯及びその用途）及び本周波数帯の使用が現状に加えて必要な理由を具体的かつ網羅的に説明した資料を提出すること。
- (3) VHF/UHF 帯は、周波数特性上、移動用途を優先的に考える周波数帯であることから、移動系のニーズに絞り検討すること。
- (4) 非常時は、安心・安全の用途を優先し、平時はそれ以外の用途も使用可能とすることにより、平時を含めた有効利用を図り、かつなるべく多くの用途を実現する方向で、望ましい運営主体や適切な運用の在り方も含め、検討し、その結果の資料を提出すること。そのためには、共同利用型であることが前提条件。
- (5) 検討に当たっては、限られた帯域（VHF 帯のハイバンドにおいて、 30 ± 5 MHz 幅）を如何に使うかという観点から、例えば、防災等の安心・安全用途といった包括的な目的のために、トータルとしてどの程度周波数が必要なのか、技術、方式等による周波数的な重複が発生しないよう検討すること。

2. その他

以上